

書きかえたものである。特に、未詳語も積極的に取り上げ、動詞を網羅するようにした。多くの方々から貴重な意見を頂いて修正したり、補筆したりした。感謝申し上げるしだいである。特に外間守善先生は激励してください。また、出版社にご推薦くださった。身に余る光栄である。

また、武蔵野書院の長尾宏氏には丁寧にも、また良心的に編集をしていただき、朝比奈時子氏には正確に校正をしていただいた。記して感謝申し上げます。

目次
まえがき
凡例
第一章 動詞の活用形
第二章 四段動詞の活用
一、カ行四段動詞
二、ガ行四段動詞
三、サ行四段動詞
四、タ行四段動詞
五、ハ行四段動詞
六、バ行四段動詞
七、マ行四段動詞
八、ラ行四段動詞

まえがき	1
凡例	6
第一章 動詞の活用形	13
第二章 四段動詞の活用	31
一、カ行四段動詞	31
二、ガ行四段動詞	54
三、サ行四段動詞	59
四、タ行四段動詞	125
五、ハ行四段動詞	140
六、バ行四段動詞	196
七、マ行四段動詞	204
八、ラ行四段動詞	228

第三章 上一段動詞の活用

332

第四章 下一段動詞の活用

342

第五章 上二段動詞の活用

343

第六章 下二段動詞の活用

344

一、ア行下二段動詞

344

二、カ行下二段動詞

345

三、ガ行下二段動詞

363

四、サ行下二段動詞

373

五、ザ行下二段動詞

383

六、タ行下二段動詞

384

七、ダ行下二段動詞

393

八、ナ行下二段動詞

402

九、ハ行下二段動詞

404

十、バ行下二段動詞

417

十一、マ行下二段動詞

422

十二、ヤ行下二段動詞

430

十三、ラ行下二段動詞

438

十四、ワ行下二段動詞

456

第七章 変格動詞の活用

459

一、カ行変格動詞

459

二、サ行変格動詞

463

三、ラ行変格動詞

474

索引

486

『おもろさうし』における四段動詞の再構連用形について」(『沖縄文化』六一、一九八三年九月) 宮城信勇

『こねり』と『なより』(『青い海』一〇〇号、一九八二年二月)

『あまへ』と『けわい』(『青い海』一一一号、一九八二年四月) 琉球王府

『琉球国碑文記』(一七〇八年頃)。引用は塚田清策『琉球国碑文記定本作成の研究』(一九七〇年三月啓学出版)による。

『混効験集』(一七二一年)。引用は外間守善『混効験集校本と研究』(一九七〇年三月、角川書店)による。

『琉球国由来記』(一七一三年)。引用は『琉球史料叢書』(一九六二年六月、井上書房)による。
L・A・セラフイム

『首里三殿内の君々』(『青い海』六四号、一九七七年七月)

第一章 動詞の活用形

『おもろさうし』における動詞の活用形の用法は次のようである。

一、未然形

(1) 単独で文節を作り、推量・意志・勧誘の意を表わす。終助詞「や」がついて詠嘆的に文を終わることや、終助詞「い」がついて軽い疑問をあらわして文を終わることもある。

○あんは かみ てづら かみや あん まぶれ(私は神を祈ろう、神は私を守れ) △二の四五<

○やまといくさ よせらや(大和の軍勢が寄せて来るであろうよ) △二〇の三四<

○かぐらおて ておりあすび しよらい(神の在所で手折り遊びをしているだろうか) △二一の一〇八<

(2) 単独で文節をつくり、「とき・かず・ひと」などの名詞を修飾する。

○あける とし た、 かす きみく てつて ふさよわれ(新年がやってくるであろうことに、神女様を祈って栄えませ) △二の七四<

○しよりかち いきや 人 あん かたれ(首里《地名》に行く人は私に語れ) △二三の一四三<

(3) 助動詞「む」がつき、意志・推量を表わす。